

振り付け・演出、湯浅より、公演直前コメント、その4 ホーンパイプ

ホーンパイプは舞曲の一つとしてバロックダンスに含まれています。イギリス固有のダンスで、フランスでは振り付けられる事がないので、あまりご存知ない方も多いかもかもしれません。でも、私はこのダンスが大好き！ これほどスリリングなダンスはありません。それはリズムです。ダンスリズムが恐ろしいほどの緊張を強いてきます。3拍子ですが、3拍子の決まりなど、完全にふっとぼしています。躍動感、緊張、跳躍、だまし討ち、モンスター・・・だんだん言葉が悪くなってきました。恐ろしいものほど、魅力的だったりする、そんなダンスです。

しかし踊ってみなければ、その魅力はわかりにくいかもしれません。細心の注意を払いつつ、緊張を保ち、音楽とリズムを合致させる楽しさ、まさしくゲームです。1拍目にアクセントが来る、というバロックダンスの決まりはしばしば無視され、小節をまたいで、または小節の中で2拍子リズムを作り、アクセントの位置が不規則にずれてきます。

この躍動感はイギリスの土着ダンス、ホーンパイプから来ていますが、ステップの複雑さはイギリスの舞踏家の発明でしょう。いかにもイギリスらしい破天荒さと遊び心です。そして、ホーンパイプはもちろんパーセルが得意とする舞曲でした。明るさの中に愁いを匂わせるメロディは、当時巷で流行したカントリーダンスに取り入れて振り付けられました。カントリーダンスは4人以上で踊る気楽な楽しいダンスで、そこではステップは簡略化されました。

今回の「アーサー王」では、第3幕最後の「ホーンパイプ」をカントリーダンスの雰囲気を取り入れて振り付けました。ステップは躍動感と共に少し凝った緊張感のあるものにしました。「チェーン」と呼ばれる鎖のようにダンサーが交差していく図形が2回入っています。普通は円形や直線を描きながらスタート位置に戻りますが、ここでは通り抜けるチェーンを使っています。ゲームのように、図形を作り、解いていく面白さが連続するのがカントリーダンスです。イギリスから世界中に広がりましたが、この待ったなしの楽しさ、やったね！と顔を見合わせる気どりの無さも、又、イギリスの心なのです。